

② 敬老事業:記念品を贈呈した町内会等のアンケート結果

R5.11.30時点

(1) 対象事業

B 記念品贈呈

回答があった町内会数→ 147

(2) 敬老対象者へ、お知らせした方法

- A 町内会で敬老対象者を特定し、対象者へお知らせした
- B 全戸配布して、お知らせした
- C その他（記入:

件数	
95	64.6%
36	24.5%
16	10.9%

(抜粋) 前年名簿に新規追加し把握、周知せずに直接贈呈した。
 老人クラブと連携して実施した。
 自治会では周知していない
 アンケートを全戸配布し、氏名、誕生日を把握
 総会で説明した。
 当初予算なしのため、町内会負担無しで補助金範囲内で実施することとし、周知せずに実施した。
 各組長を通じて配布した。
 電話で確認した。(誕生日等)
 町内会回覧板を利用した
 今後を考慮し65歳以上にアンケート実施
 老人クラブからの情報提供
 地元行事で周知した(道路一斉清掃など様々)

(3) 町内会未加入者、脱退者への周知等について

- A 未加入者にも、お知らせした
- B 未加入者には、お知らせしなかった
- C 未加入者は、いない
- D その他（記入:

件数	
18	12.2%
31	21.1%
93	63.3%
4	2.7%

(抜粋) 未加入者にも贈呈した。
 プライバシー保護、名簿無し、どう出来るのか。
 対象者以外には周知していない
 対象者へ直接お届けした。

(4) 町内会長や役員、協力団体等、実施主体の意見、要望

○実施して良かったこと

(主な回答) 対象者に喜ばれた、楽しんでもらえた
 対象者に敬意や感謝を表すことができた
 交流を図ることができた、親睦を深められた
 その他

件数	
65	44.2%
22	15.0%
7	4.8%
9	6.1%

(抜粋) 実施に関して、近隣自治会と足並みを揃えられた
 来年度の敬老会開催の弾みになった
 敬老事業を継承でき、不平等が軽減
 記念品を届けたときに喜ばれた
 対象者の確認ができた
 部落会の連帯感がより深く浸透した
 75才になり敬老会参加を待っていた人がいた
 記念品配布だけでも、少しでも敬老を祝うことができた
 なかなか会えない方々と会うことができた
 コロナで中止していたので、記念品だけでも実施できてよかった
 敬老事業は、無いよりは有った方がよい
 限られた補助金額内の記念品でしたが喜んでもらえた

② 敬老事業:記念品を贈呈した町内会等のアンケート結果

R5.11.30時点

○運営上、苦勞したこと

- (主な回答) 対象者の確認や名簿の作成
 内容の企画(記念品の選定や贈呈方法など)
 予算の確保と運用
 不在宅や入所・入院者への贈呈の扱い
 協力員の確保(発注・贈呈)
 その他

件数	
49	33.3%
32	21.8%
6	4.1%
1	0.7%
4	2.7%
3	2.0%

- (抜粋) 書類の不備のため何度も市役所へ赴いた
 今年度名簿作成に苦慮したが、次年度少し手間が減る
 名簿作成に時間を要し、各組長さんに苦勞をかけた
 電話で誕生日を確認した
 地域全体での開催が難しいとしても丸投げはおかしい
 申込書は個人情報に記載されているが、保存年限等は。
 敬老事業を投げやりにされた感じする
 世話人がいない
 文句は市に言わず私達が言われる。補助するからやれ、では無いと思います。
 対象者には在宅介護、寝たきりの方等様々。同一に考えてほしい。
 役員が対象者宅を訪問した。
 例年、複数の老人クラブで合同開催していたが、急に各町内単位となった。

○コロナ対策の取組み

- (主な回答) 手指消毒、マスク着用(3密対策含む)
 特にしていない
 (抜粋) 全戸にFAXで注意喚起している

件数	
32	21.8%
115	78.2%

② 敬老事業:記念品を贈呈した町内会等のアンケート結果

R5.11.30時点

○制度改正してほしい点

(主な回答)

	件数	
補助金の増額	19	12.9%
手続きの簡易化	4	2.7%
対象者名簿や情報の提供(町内会長のみでも)	11	7.5%
対象となる範囲の拡大(入所者や70歳以上など)	6	4.1%
補助金の前払い	1	0.7%
補助事業の継続	1	0.7%
市で主催すべき	14	9.5%
その他	19	12.9%

(抜粋)

敬老事業の在り方を検討すべき
 自治体ともっと話し合うことがあるのでは
 敬老会欠席者への記念品贈呈が必要(不平等)
 補助事業(敬老会と記念品贈呈)の併用
 対象者リストがなく、配布日当日に漏れが見つかった
 他町内との比較になるため補助金制度はいらない
 今迄どおり市主催の敬老会を開催すべきでは
 市が全町同一の記念品を配布すればよいと思う
 実績報告は名簿不要としてほしい(人数・領収書のみ)
 記念品注文の希望取りまとめは不要。全員に贈呈すべき。
 敬老会と記念品の併用を補助対象にすべき
 実績報告の名簿の生年月日の記載が苦勞した
 名簿の提出は省略してほしい
 対象者特定に苦勞したので何とかしてほしい
 丸投げなどして、無理にする必要はない
 対象者把握のため、情報提供してほしい
 市が町内会へ、記念品を渡せば、配布したい。
 実施しない町内会も有るが、このやり方で良いのか
 対象人数だけでも提供してほしい。予算が組みやすい。
 5類でも、金を出し丸投げでは、敬老、敬う精神はどこに
 地域全体での開催が難しいとしても丸投げはおかしい
 町内会で立案作成した案内状を市から送付するのはどうか
 敬老会と記念品の併用
 事業計画や予算が決まった後に事業が周知された
 手続きの簡素化。特に生年月日は聞きづらい。
 敬老者名簿の提供等、把握できるように。
 均等割りの補助はないのか
 安くても良いので、市全体で同じ記念品を配ってほしい
 不参加でも記念品補助してほしい。二者択一は厳しい。
 講演など町内会単位では厳しい。支所地域の単位では。
 補助金算定は参加者人数割と運営均等割が良い。
 市の事業として支所地域で開催していただきたい

② 敬老事業:記念品を贈呈した町内会等のアンケート結果

R5.11.30時点

(5) 敬老者の方々からの、意見、要望

件数	
44	29.9%
16	10.9%
6	4.1%
18	12.2%

(主な回答) 楽しかった、嬉しかったなど
残念だった、不満が残ったなど
今まで通り敬老名簿が欲しい
その他

(抜粋) 補助事業(敬老会と記念品贈呈)の併用
お金を配布したい
夫婦に同じ物を贈呈、品物の検討
旧市町単位で敬老会を開催してほしい
記念品贈呈より敬老会開催を望む
敬老会を開催してほしい
記念品は有難い。来年以降も続けてほしい
今迄どおり、支所地域の名簿がほしい
地域に貢献してきた高齢者を敬うのは市の務めである
1人暮らしは喜んでくれたが、他はそうでもなかった
この年で記念品をもらえるなら、今後もほしい
市の敬老会より参加しやすかった
敬老事業を今後も続けてほしい
支所地域での廃止は、友人知人と会えなくなってとても残念
子供には手厚いが、高齢者にも寄り添ってほしい
老人クラブ以外の敬老者もお祝い、交流したい。
遠くの会場まで行かなくも良いのでよかった。
記念品を望む敬老者が多かった

(6) 令和6年度 of 取組(見込み)について

件数	
19	12.9%
102	69.4%
8	5.4%

A 市の補助事業を活用し、敬老会を開催したい
B 市の補助事業を活用し、記念品を贈呈したい
C その他 (記入:
(抜粋) 次期総会で検討
老人クラブと協議しながら進める
AとBが併用できれば活用したい
事業自体、高齢社会では無理。町内会の現状をわかってない。
他の町内会がやるから、うちもやっただけ。来年は新会長次第。
補助金があるから実施したものであり、通常は実施できない。
今のところ未定